

中京記念凡走馬が狙い
 一昨年は中京記念組が7頭出走し、中京記念の着順が最も悪かった(14着)エーシンリターンズが2着。他はすべて5着以下。昨年は中京記念組が9頭出走し、すべて4着以下。中京記念①②着馬は⑩⑪着だった。このように、関屋記念は中京記念と何の関係もない。同じ左回り千六でも要求される適性が

真逆になっている。ちなみに過去2年の勝ち馬は東京で重賞①着かGⅡ着があった。坂の有無は別として、質は東京に近い。重賞好走が中京記念だけ(④②)の2着のミキドドリムは今の一番に消し。中京記念⑦のサトノギヤント、クラレント(どちらも中京記念では無印)を○とした。
 中京記念で無印にしたのは、中京最終日の重い芝は合わないから。どちらも東京の良馬場では凡走が少ないうえに、中京よりも(軽い芝の)新潟の方が合っている。

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

編集長の爪

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。



11R 3 連複	
上位1/4~25%	
71115	25.2
71113	35.6
17111	38.2
71911	44.1
71315	49.8
17115	51.5
71114	55.5
11115	59.2
111315	61.1
71112	62.1
47111	62.3
78111	66.4
17113	68.9
57111	70.0
71915	71.2
71415	81.6
71011	83.9
57115	85.2
11571	90.0
111215	91.7
111415	92.3
14147	92.4
71215	93.4
11719	93.7
71910	98.5

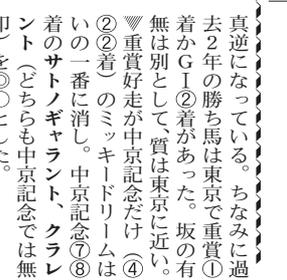
前走も買った⑧Rのテンシランマンで、もうひと勝負。ハイペースの逃げは千通過57秒1の大失速したわけではない。コンマ8秒差は好内容。というわけではなかった前走も、前2頭が競り合えば前走33秒4-57秒1のハイペース。これを自ら捕まえるには③着確保は、地力上位を示す内容。本来、内回り千四は先行有利。今度こそ①着つけ。
 ①Rはミトラ。ダートで3勝を挙げ、新馬戦以来の芝の競馬になったフリーウェイS(東京千四)を3馬身差でレコード勝ち。16ヶ月ぶりの競馬で勝った前走もそうだが、常識の枠には納まらない強さを持っている。強力先行馬は不在で落ち着いた流れ、早め抜け出しからの押し切りを狙います。

63歳になる新潟の友だちは、あんなものを持ったら人間が変わっちゃうよ、とケイタイ電話を持つとうし。今や、それはヘンクツということになるのだが、現代での最高のキザと言えるかもしれない。
 先週の日曜日の夜のこと、おそい時間に私が帰宅して留守電を聞く。
 「オビフウ、オビフウ、オビフウー」
 といきなり新潟の63男の声がした。
 「119。119だったって、救急車の話じゃないの。3連車、119万1470円。3連車、①①②。北村、大野、川須。」

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

競馬人情 吉良

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。



11R 3 連単	
上位1/4~25%	
71112	70.5
11715	86.4
71115	105.7
11157	128.5
71111	134.5
71511	138.7
11713	144.1
11713	144.3
11711	154.8
15711	158.8
71315	163.3
71311	171.4
15117	173.5
71111	178.6
11719	182.2
11714	191.5
71119	196.9
71513	202.7
71511	209.2
11174	210.5
11174	215.2
11117	227.2
15713	236.0
71114	240.0
71115	247.3

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

前走も買った⑧Rのテンシランマンで、もうひと勝負。ハイペースの逃げは千通過57秒1の大失速したわけではない。コンマ8秒差は好内容。というわけではなかった前走も、前2頭が競り合えば前走33秒4-57秒1のハイペース。これを自ら捕まえるには③着確保は、地力上位を示す内容。本来、内回り千四は先行有利。今度こそ①着つけ。
 ①Rはミトラ。ダートで3勝を挙げ、新馬戦以来の芝の競馬になったフリーウェイS(東京千四)を3馬身差でレコード勝ち。16ヶ月ぶりの競馬で勝った前走もそうだが、常識の枠には納まらない強さを持っている。強力先行馬は不在で落ち着いた流れ、早め抜け出しからの押し切りを狙います。

63歳になる新潟の友だちは、あんなものを持ったら人間が変わっちゃうよ、とケイタイ電話を持つとうし。今や、それはヘンクツということになるのだが、現代での最高のキザと言えるかもしれない。
 先週の日曜日の夜のこと、おそい時間に私が帰宅して留守電を聞く。
 「オビフウ、オビフウ、オビフウー」
 といきなり新潟の63男の声がした。
 「119。119だったって、救急車の話じゃないの。3連車、119万1470円。3連車、①①②。北村、大野、川須。」

競馬人情 吉良

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。

11R 3 連単	
上位1/4~25%	
71112	70.5
11715	86.4
71115	105.7
11157	128.5
71111	134.5
71511	138.7
11713	144.1
11713	144.3
11711	154.8
15711	158.8
71315	163.3
71311	171.4
15117	173.5
71111	178.6
11719	182.2
11714	191.5
71119	196.9
71513	202.7
71511	209.2
11174	210.5
11174	215.2
11117	227.2
15713	236.0
71114	240.0
71115	247.3

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

前走も買った⑧Rのテンシランマンで、もうひと勝負。ハイペースの逃げは千通過57秒1の大失速したわけではない。コンマ8秒差は好内容。というわけではなかった前走も、前2頭が競り合えば前走33秒4-57秒1のハイペース。これを自ら捕まえるには③着確保は、地力上位を示す内容。本来、内回り千四は先行有利。今度こそ①着つけ。
 ①Rはミトラ。ダートで3勝を挙げ、新馬戦以来の芝の競馬になったフリーウェイS(東京千四)を3馬身差でレコード勝ち。16ヶ月ぶりの競馬で勝った前走もそうだが、常識の枠には納まらない強さを持っている。強力先行馬は不在で落ち着いた流れ、早め抜け出しからの押し切りを狙います。

63歳になる新潟の友だちは、あんなものを持ったら人間が変わっちゃうよ、とケイタイ電話を持つとうし。今や、それはヘンクツということになるのだが、現代での最高のキザと言えるかもしれない。
 先週の日曜日の夜のこと、おそい時間に私が帰宅して留守電を聞く。
 「オビフウ、オビフウ、オビフウー」
 といきなり新潟の63男の声がした。
 「119。119だったって、救急車の話じゃないの。3連車、119万1470円。3連車、①①②。北村、大野、川須。」

競馬人情 吉良

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。

11R 3 連単	
上位1/4~25%	
71112	70.5
11715	86.4
71115	105.7
11157	128.5
71111	134.5
71511	138.7
11713	144.1
11713	144.3
11711	154.8
15711	158.8
71315	163.3
71311	171.4
15117	173.5
71111	178.6
11719	182.2
11714	191.5
71119	196.9
71513	202.7
71511	209.2
11174	210.5
11174	215.2
11117	227.2
15713	236.0
71114	240.0
71115	247.3

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

前走も買った⑧Rのテンシランマンで、もうひと勝負。ハイペースの逃げは千通過57秒1の大失速したわけではない。コンマ8秒差は好内容。というわけではなかった前走も、前2頭が競り合えば前走33秒4-57秒1のハイペース。これを自ら捕まえるには③着確保は、地力上位を示す内容。本来、内回り千四は先行有利。今度こそ①着つけ。
 ①Rはミトラ。ダートで3勝を挙げ、新馬戦以来の芝の競馬になったフリーウェイS(東京千四)を3馬身差でレコード勝ち。16ヶ月ぶりの競馬で勝った前走もそうだが、常識の枠には納まらない強さを持っている。強力先行馬は不在で落ち着いた流れ、早め抜け出しからの押し切りを狙います。

63歳になる新潟の友だちは、あんなものを持ったら人間が変わっちゃうよ、とケイタイ電話を持つとうし。今や、それはヘンクツということになるのだが、現代での最高のキザと言えるかもしれない。
 先週の日曜日の夜のこと、おそい時間に私が帰宅して留守電を聞く。
 「オビフウ、オビフウ、オビフウー」
 といきなり新潟の63男の声がした。
 「119。119だったって、救急車の話じゃないの。3連車、119万1470円。3連車、①①②。北村、大野、川須。」

競馬人情 吉良

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。

11R 3 連単	
上位1/4~25%	
71112	70.5
11715	86.4
71115	105.7
11157	128.5
71111	134.5
71511	138.7
11713	144.1
11713	144.3
11711	154.8
15711	158.8
71315	163.3
71311	171.4
15117	173.5
71111	178.6
11719	182.2
11714	191.5
71119	196.9
71513	202.7
71511	209.2
11174	210.5
11174	215.2
11117	227.2
15713	236.0
71114	240.0
71115	247.3

今年芝状態(天候)も難しいところへ、飛ばす馬不在。波乱の要素にふれられている。展開面の注目馬は、ちょっと詰めの甘い58kgダンシヤックの逃げもありえること。内田博幸騎手は、5月のヴィクトリアマイルで、ヴィルシーナで逃げの手に出て快勝した。もう1頭、強気に行く可能性があるのはM・エスポジト騎手(伊)の伏兵ミトラ。
 キャリアは浅いが、16カ月ぶりのOP特別を楽勝。ダートで3勝したあとの4歳5月、初めて東京芝1400mに出走すると、1分19秒6(上がり33秒)のレコードで独走だった。芝1600mは2戦①①着だ。予測されるスローで、切れ味頭質になって怖いのは、ただ1頭の牝馬エクセレントカーヴ(戸崎圭太騎手)か。
 昨年(3走前)、快速重賞「京成杯AH」を1分31秒8で鋭く差し切っていた。当時の2着がダンシヤック(58kg)だった。出走が少ないうえ、新コースになって以降1頭も連対した例はないが、ベテランが53歳で乗る3歳馬⑨⑩は怖い。(柏木)

前走も買った⑧Rのテンシランマンで、もうひと勝負。ハイペースの逃げは千通過57秒1の大失速したわけではない。コンマ8秒差は好内容。というわけではなかった前走も、前2頭が競り合えば前走33秒4-57秒1のハイペース。これを自ら捕まえるには③着確保は、地力上位を示す内容。本来、内回り千四は先行有利。今度こそ①着つけ。
 ①Rはミトラ。ダートで3勝を挙げ、新馬戦以来の芝の競馬になったフリーウェイS(東京千四)を3馬身差でレコード勝ち。16ヶ月ぶりの競馬で勝った前走もそうだが、常識の枠には納まらない強さを持っている。強力先行馬は不在で落ち着いた流れ、早め抜け出しからの押し切りを狙います。

63歳になる新潟の友だちは、あんなものを持ったら人間が変わっちゃうよ、とケイタイ電話を持つとうし。今や、それはヘンクツということになるのだが、現代での最高のキザと言えるかもしれない。
 先週の日曜日の夜のこと、おそい時間に私が帰宅して留守電を聞く。
 「オビフウ、オビフウ、オビフウー」
 といきなり新潟の63男の声がした。
 「119。119だったって、救急車の話じゃないの。3連車、119万1470円。3連車、①①②。北村、大野、川須。」

競馬人情 吉良

関屋記念は、06年に④番人気の決着で大波乱のあと、最近7年の連対馬14頭中、13頭までが回番人気以内の馬。
 波乱の少ないGⅢだが、快速重賞とされるわりにレースの流りが怪しくなっている。最近10年で、前半1000m通過59秒台のスローが3回もある。今年の予測ペースもスロー。
 逃げ先行で好走している馬は極端に少なく、2走前に谷川岳S(新馬)を先導した⑦シルクのペースは、なんと前半62秒4だった。未勝利でもありえないペースが成立したのは、最後の直線が約660mもあるから。直線ペース化である。最近10年の勝ち馬中、5頭が上がり32秒台、10頭の平均も「33秒14」となる。
 現コースになって過去13回、勝ち時計平均は1分32秒25。前後半バランスは「46秒74-45秒51」という数字はあるが、近年になるほど、前半はスローで、後半の勝負が多い。

11R 3 連単	
上位1/4~25%	
71112	70.5
11715	86.4
71115	105.7
11157	128.5
71111	134.5
71511	138.7
11713	144.1
11713	144.3
11711	154.8
15711	158.8
71315	163.3
71311	171.4
15117	173.5
71111	178.6
11719	182.2
11714	191.5
71119	196.9
71513	202.7
71511	209.2
11174	210.5
11174	215.2
11117	227.2
15713	236.0
71114	240.0
71115	247.3